

保健体育研究発表会（高槻市立第九中学校）を終えて

今年度から2年間、第九中学校保健体育科が文部科学省国立教育政策研究所の指定を受け、体育分野・保健分野における「思考力・判断力を育成するための指導方法等の研究」を進めています。

1月19日（金）に、保健分野の研究授業を行い、市内の保健体育科教員をはじめ府内、府外からも多くの先生方に参加していただきました。

また、講師として、国立教育政策研究所の森良一教育課程調査官にお越しいただき、貴重な指導助言をいただきましたので、その内容について保健体育科の先生方に報告いたします。

ぜひ、日々の授業に生かしてください！！

1年 心身の機能の発達と心の健康 「精神機能の発達と自己形成」

本時のねらい：心の発達について、身近な生活の中で予想される課題に対し、仲間の意見を参考にしながらよりよい解決の方法を考える。【思考・判断】

課題設定：これまでの学習や経験をもとに、「こんなとき、あなたならどうしますか？」

～こんな時、どうしてる～

Bさんは3日後の授業で調べ学習の発表をしなければなりません。そこで、クラブ活動が休みの今日、服部図書館に行って、本で調べようと思っていました。しかし友達が。

今日、遊びに行ってもいい？
発表の準備は前日にやれば大丈夫でしょ？



5つのパターン

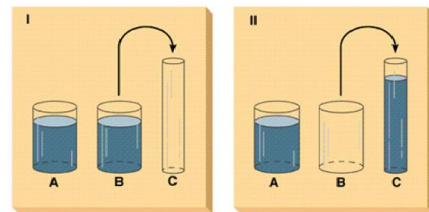
- A 理由を伝える（なぜ遊べないのか理由を伝える）。
例） 「今日しか取組む時間がないから遊べない」。
- B 自分の気持ちを素直に伝える（遊びにいけない自分の気持ちを伝える）。
例） 「調べ学習をしっかり取り組みたいから今日は遊べない」。
- C 代わりの案を提示する（一緒に遊ぶために代わりの案を提示する）。
例） 「発表の後に遊ばないか」。
- D くり返し断る。
例） 「とにかく今日は無理なんだ」と何回も繰り返す。
- E 何かしらの嘘をついて断る（嘘も方便）。
例） 「親に今日は勉強するように言われている」。

【森調査官からの指導助言】

～今回の授業の良かった点について～

①導入部分

心が発達したということについて、具体的に右図を使って、まず子どもたちに確認し、「小3よりも今の中1の方が心が発達しているんだよ」ということをイメージさせる。そのことは、さらに「心を発達させていきたいな」という思いにもつながっていく。そのため、具体的に心が発達しているかどうかということをお教えることは大事なことになる。



「コップの水はどっちが多い？それとも同じ？」

②習得した知識を活用する学習活動 = 思考力・判断力・表現力等を身に付けるための学習活動

教科書P23の右下に4つの事例があるが、今回は取り上げた事例を絞ったところが良かった。精神機能は、知的機能・情意機能・社会性の3つで、この3つ全てを取り上げるような事例も考えられるが、今回は、社会性の発達のところからつなげた事例に絞った。これは、P23の右下の「メッセージのやり取りを終えたいとき」の事例（断り方の事例）に近い。4つの事例全部を出して、それぞれのグループで考えさせて共有するというやり方もあるが、一長一短で、それがうまくいく場合もあるし、共通理解がなかなかされない場合もあるので、このようなことを考えると今日の授業はとてもスムーズだった。

③課題解決に向けた学習活動

個人で考えることを前時で行い、本時ではグループで考え、その後個人に戻して考える、というパターン（流れ）がとてもいい。グループで考えるだけでなく、もう一度、個人に戻すことによって、グループで学習することの意味が出てくる。グループで考えたことにより、広がったり深まったりしている思考を最後自分に取り入れることができれば、グループで考えることの意味が子どもたちに伝わる。

この單元では、心の発達→心身相関→ストレス対処という流れであるが、この単元の重要な要素は「人間関係」。以前とは違い、ストレスもほぼ対人関係ストレスが占めている状況である。対人関係は、面倒だし、ストレスもあるし、嫌なものというように子どもには伝えたくない。対人関係、人間関係を豊かにしていくことが、心を発達するためには重要だということをしっかり教えていかなければ、対人関係が面倒だという子どもが増えてしまうのではないだろうか。だから、この單元では、ストレス対処だけを指導すればいいのではなく、心の発達からしっかり指導することがとても大事になる。これからますます人との付き合いが薄弱になっていく世の中になるかもしれないが、それが本当に健康的な世の中なのかと考えたときに、保健体育として、子どもたちに「人間関係は重要なんだ」と健康の面から教えていってもらいたい。

今回の授業では、子どもたちが断り方を選ぶパターンの中に「嘘をついて断る」ということが入っていた。一般的に嘘は良くないが、保健体育の授業として考えたときにはどうだろうか。例えば、ガンの告知をすべての人にやるのではなく、いろいろ考えて告知したりしなかったりするということや、あなたはガンじゃないですと嘘をつく場合もある。それが正しいかどうかではない。「人のために嘘をつくこともある」、ということもひとつの選択肢として認めることができるかどうかである。今日の授業では、それを選択肢に入れた。それがいいか悪いかではなく、このようなことを総合的に心から考えられるような子どもたちに育ててほしい。

保健教育は、健康になることを目的にしているのではない。健康は生きる目的ではなく、毎日の生活の資源である。私たちは何かをやりたいとか何かになりたいという夢や目的を持っている。そのような夢や目的を実現するためには、社会的・個人的資源が重要であり、健康というのはそのときの重要な資源のひとつになる。子どもたちには、積極的にその資源を獲得していくことが大事だということをお教えてもらいたい。

（文責：教育指導課 岩佐知美）